

「東京都観光産業振興実行プラン（案）」に対する意見募集の結果

東京都は、令和3年12月21日（火）に「東京都観光産業振興実行プラン（案）」を発表し、東京都ホームページへの掲載等を通じて、広く都民の皆様のご意見を募集しました。貴重なご意見を多数いただき、誠にありがとうございました。

ここでは、お寄せいただいた主なご意見の概要と、それに対する東京都の考え方を紹介させていただきます。

1 意見募集の期間と件数

- (1) 募集期間
令和3年12月21日（火）から令和4年1月19日（水）まで
- (2) 意見件数
21件

2 主なご意見と東京都の考え方

ご意見（概要）	東京都の考え方
第2章 今後の観光産業振興の方向性	
基本理念について、環境意識が大きく変化している状況下で、環境への取組や新たな取組・方向性に立脚したプラスの復元というニュアンスが弱く、世界の競合とどのように渡り合っているのか、大局的な戦略があまり見えなように感じる。	持続可能な観光への関心が世界的に高まっており、観光分野においてもSDGsの達成に貢献していくことが求められています。本プランでは、都民の意向や文化、環境に関する政策目標を設定しており、目標の達成に向けて本プランに掲げた施策を推進してまいります。
基本理念に関連して、フランスの「観光復興プラン」で持続可能に向けた項目として掲げられている、「持続可能な観光発展を評価基準とするホテル格付けの見直し」や「環境負荷の低い交通手段の選択」の視点が若干弱いように感じる。	本プランでは、持続可能な観光を推進するため、観光事業者等による環境に配慮した取組を支援する施策を掲載しております。
目指すべき将来像の一つである「東京の伝統芸能や食など東京の持つ芸術文化の魅力が最大限生かされ、旅行者と都民とが交流する都市」について、江戸野菜をクローズアップできるといいのではないかと。	東京の「食」を観光コンテンツとして位置づけ、春と秋に開催するグルメフェスティバルにおいて、東京産食材を始めとした東京の「食」の魅力を国内外に広く発信してまいります。
第3章 観光産業振興に向けた今後の施策展開	
戦略1 観光産業の活性化	
観光事業者向けワンストップ支援センターについて、国の制度等も含め幅広くに支援策等ご案内いただく体制を早期に構築していただきたい。	観光事業者向けワンストップ支援センターは、2022年度中に開設予定です。
「海外映画・テレビドラマの都内における撮影やロケハンに対する支援を検討する」とあるが、ぜひとも積極的な支援策を具体化され、大型プロジェクトの誘致を推進されたい。	来年度から新たに、海外映画・テレビドラマの都内における撮影やロケハンに係る費用を助成し、ロケ地誘致を積極的に行ってまいります。
戦略2 社会変化等に対応した「新しい観光」の浸透	
デジタル技術を活用した観光の推進には、区市町村や観光協会などの既存のWEB等の情報発信強化も必要と考える。そのため、VR、AR等のXR技術だけでなく、DXへの移行のためのリニューアル・整備支援等の必要性も検討してほしい。	区市町村のデジタル技術を活用した外国人旅行者の受入環境整備を支援しております。また、観光協会等の経営力強化を図るためのデジタル技術導入や情報発信等を支援しております。今後とも、こうした取組を進めてまいります。
東京ならではのカルチャーツーリズムを構想してほしい。	地域の特色ある文化資源を活用した取組を支援するとともに、アニメやマンガなど国内外から評価の高いコンテンツ等を活用した観光振興を推進してまいります。

ご意見（概要）	東京都の考え方
デザインマンホールなどのアニメ等コンテンツによる誘客促進は、すでに日本全国の様々な自治体で活用が進められている。今後は、地域にゆかりのある歴史的人物や映画・ドラマのロケ地等の活用も検討してほしい。	歴史的人物にゆかりのある観光スポットを紹介するなど、近隣県と連携した観光プロモーションを展開しております。また、東京で撮影された映画やドラマなどの映像作品を活用したPRを行っております。今後とも、こうした取組を進めてまいります。
湾岸部や都心部の観光は充実しているため、23区全体をさらに盛り上げることで、都心のオーバーツーリズムの回避になり、都全体として観光が盛り上がると考える。	近隣地域内での観光を楽しむ気運の高まりを踏まえ、地域内での旅行者の周遊を促す取組を推進してまいります。
町工場ツアーとか、知る人ぞ知る古い建物とかを見に行きたい。	都はこれまで観光協会や企業・団体など多様な主体が連携して行うライトアップ等のテーマ別の地域の観光資源開発を支援しており、今後ともこうした取組を支援してまいります。
戦略3 持続可能な観光の推進	
「施策6 地域・住民に寄り添った観光地域経営の推進」について、なかなか自らの自治体の魅力に気づきにくい面もあることから、様々な自治体の情報発信などを様々なツールを活用してお願いしたい。	地域の観光施策を総合的に支援する地域支援窓口を設置しており、地域の観光関連団体等の課題に対応した支援メニューの提供等を行っております。今後は、ポータルサイトを立ち上げ、観光協会等の自主的な取組や団体間の連携の強化を図ってまいります。
人材育成について、観光協会等への大学生の派遣と観光ボランティアの活動支援の記述があるが、現在活動中の方も尊重しつつ、新たな若手人材の育成についても検討してほしい。	観光の担い手の確保・育成に向け、都内の中学・高校等での教育旅行の受入による国際交流の機会を活用し、生徒が東京や地域の魅力を発掘し、海外留学生に紹介する体験を新たに支援してまいります。
都内の文化財の活用について、自治体間で連携して何かできると面白いと考える。	国内外からの旅行者を惹きつける重要な観光コンテンツである地域の特色ある文化資源を活用した取組を支援しております。頂いたご意見は今後の施策の参考にさせていただきます。
観光と食は切り離せないと思う。	東京の「食」の魅力を国内外に広く発信するグルメフェスティバルを春と秋に開催するとともに、東京の「食」のブランディングに向けた調査等を実施し、観光プロモーション等に活用してまいります。
4 MICE誘致の推進	
コロナを経て、MICEを取り巻く状況が大きく変わった現状について触れられていない。DXなどを含めた先進的な取組をキャッチアップした対応が必要である。	新型コロナウイルス感染症を契機として、MICEにおいてもデジタル技術の活用が求められています。次世代型MICEの推進に向けて、ハイブリッド開催等への支援を充実してまいります。
第4章 観光産業振興実行プランの実現に向けて	
都の役割について、データのハンドリングなど、EBPM（エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング）に必要な情報を収集できる仕組み構築を都が主導的に進めることが望ましい。	今後、観光統計データを視覚化して分かりやすくまとめたダッシュボードを構築・公開し、都内区市町村や各地域の団体、事業者等が行うマーケティング活動を支援してまいります。
その他のご意見	
目標年・期間と、利用する財源規模が不明である。	本プランは、2022年度から2023年度までの2か年の計画です。財源規模につきましては、毎年度、施策の実施に必要な額を精査した上で計上してまいります。
パリでは、公共自転車Velibの拡充、大々的な自転車レーンの整備、市内ノーカーデイの実施、市内バスのEV化の推進、市内17万本植林など、サステナブル関連施策が目白押しだが、東京においても都市緑化や自転車活用などをサステナブル・リカバリーとして打ち出すべき。	本プランでは、観光産業の復活と持続的な成長に向けた取組についてまとめております。都では、2021年3月に「『未来の東京』戦略」を策定し、「緑溢れる東京プロジェクト」など「サステナブル・リカバリー」の視点から様々な取組を推進しております。